

### 31 ロイヤル・マーズデン病院の設立と発展

柳澤波香

Royal Free 病院を設立し、イングランドの病院を voluntary hospital の精神に立ち返らせた William Marsden (第一〇一回日本医史学会発表参照) は、更に一八五一年、ロンドンに世界初の癌専門病院(現在の Royal Marsden 病院)を創設した。この病院の創設の経緯および現在に受け継がれる精神について述べる。

一九世紀のイングランドで専門病院の設立が相次ぐ中、William Marsden は癌専門病院の設立を決意した。癌の有効な治療法や研究については未開の時代であった。妻を癌で喪った William Marsden は癌の治療と研究の発展を希い、癌専門病院の設立を発意したのである。しかしながら、癌による死亡者の数は増加する傾向にあったものの、癌専門病院の必要性は当時おおよそ認識

されておらず、Royal Free 病院の後援者であるウィクトリア女王も当初は資金援助を拒絶した。このように幅広い理解は得られなかったが、パイオニア精神に富む William Marsden は一八五一年、癌専門の外来診療所をウエストミンスターに開設し、一般病院で不治と診断された癌患者の診療を開始した。さらに翌一八五二年、ブロンプトンに家屋を借りて二三床の Free Cancer 病院を開き、資金調達に苦労しながらも協力的な友人医師や少数の支援者の力を得て、その後二年の間に六五四人の癌患者の診療を行った。Free Cancer 病院の外来・入院患者数は日増しに急増したので、癌専門病院の必要性が周囲にも明確に認識され始めた。大銀行家の娘 Lady Angela Burdett-Coutts が多額の寄付を寄せ、またウィクトリア女王もここに至って癌専門病院の意義を認めて援助を決定した。そこで現在病院が所在するサウスケンジントンの敷地が確保され、一八六二年に堂々たる伽藍の病院が開設された。一八五一年の癌専門外来診療所の開設からこのときまでの十年余りの間の受診者数は五千人に上った。この Free Cancer 病院は、一

九三六年に Royal Cancer 病院と改称され、更に創立百周年に際して Royal Marsden 病院となり現在に至る。

本年創立一五〇周年を迎えるこの病院は、癌治療と研究の総合的発展および患者の苦痛の緩和を旨とした創立者の意思を受け継ぎながら、常に癌治療と研究をリードし続けてきた。放射線療法、化学療法に関しては先駆的業績が数多く挙げられている。また、ヨーロッパの緩和ケアはこの病院を発祥としている。また、このような医療の他、Royal Marsden 病院では、創立初期の頃より婦人病棟のカーテンは花柄のものを採用し病院の中にあっても家庭的な雰囲気を感じられるようにと配慮がなされていたエピソードが示すように、癌患者に対する精神的ケアが重んじられてきた。さらに、病院の創設を支えた Voluntarism 精神の流れを汲み、今日でも多くの人々から精神的サポートが数多く寄せられている。患者への情報の提供は、自ら癌闘病の経験を持つものやその家族などがボランティアで行っている。小児癌患者やその幼い兄妹に対して腫瘍とは何かを説明する冊子など、患者のみならずその家族に向けたサポートも行われている。医

療スタッフによる患者の治療だけではなく、一般の人々あるいは患者による患者のためのケアは創設以来の charitable な精神を反映しているのである。最後に、Royal Marsden 病院に所縁が深く、二〇世紀末の病院の発展に寄与した故ダイアナ英皇太子妃について触れる。病院や病人に心を寄せた同妃は一九八九年に Prince Marsden 病院長となり、小児癌病棟の設立などに尽力した。現在でもダイアナメモリアル基金からは病院に資金が寄せられ、癌の治療研究を支えている。病院の廊下には生前に描かれたダイアナ妃の数少ない貴重なポートレートのひとつが飾られている。

(東京都新宿区)